



副学長として

理事 兼 副学長
兼 人間形成教育センター長**今井 正和** 教授

現在は経営学部の所属となっていますが、情報科学分野の研究をしています。音響信号処理、画像処理、ロボットの研究を行い、ふとしたことからある大学で日本初の電子図書館を構築しました。鳥取環境大学に着任してからは、ネットワークを用いた映像伝送の応用や、気象センサを密に配置してセンサからの情報を収集・蓄積することをテーマとしてきました。

このように書いてみると、それぞれのテーマの間に関連があるような、ないような、

よく分からないことになっているなど感じます。でも本人は、「コンピュータという機械はこんなことができるので、役に立つのだよ」ということを示してきたつもりです。人間の聴覚や視覚をコンピュータで「真似」をする、あるいは情報を溜め込んで必要な時に瞬時に引き出す。そういったことをテーマとしてきたのです。ネットワークを用いた映像伝送の応用については、少し毛色が違うようですが。最近、人工知能、ロボット、電子書籍などが話題になることが

多くなっていますが、それらを見ると「ああ、僕たちがやってきたことが今華開いてるんだなあ」と思います。それと同時に、未来に華咲くための種を仕込まないといけないとの思いを新たにしています。

環境学部の学部長として

環境学部長 兼 環境経営研究科副研究科長
兼 環境経営研究科環境学専攻長**小林 朋道** 教授

公立化になって5年目。公立鳥取環境大学になっての第1期生240名がこの3月に巣立っていきました。そのうち123名が環境学部の学生達です。

ところで、高校の先生方への大学説明会等で、(農学部とか法学部といった既成のものとは異なった)環境学部はどんな学部か、どんなことをするのかといった質問をよく受けます。そんなとき私は次のような答えをします。

環境問題の改善のためには、さまざまな学問分野の研究、実践が必要です。環境学部では、自然環境保全プログラム(大気、水、土壌、生物からなる自然生態系を調べ、健全な状態を維持する方法を

る)、循環型社会形成プログラム(大量のエネルギーや物質を消費する人間活動が自然生態系に及ぼす影響を調べ、活動が生態系にダメージを与えない方法を調べる)、人間環境プログラム(人間が、より快適な生活ができるように作り出してきた、居住地をはじめとした人工的環境を調べ、生態系と共存するあり方を探る)という3つの面から環境問題に取り組みます。学生諸君はフィールドワークを重視して環境問題の全体像を学びつつ、3、4年次で、それぞれが希望する専門分野を深めていく—それが環境に特化した本学部の強みだと思っています。また環境問題に、理論的、実践的にぶつかることを通して、それぞれ

の問題解決能力全体を高めることや教育者への道を目指すことも環境学部の特色だと考えています。

今年度は、環境学部教員の念願であった実験棟も完成する予定です。学部の教員全体が環境問題の全体像を念頭に、各々の専門分野でのびのびと教育、研究に取り組む—そんな姿勢で、学生達としっかり向き合っていきたいと思っています。



人事報告 [2016.4.1付]

西村 教子 教授副学長補佐(広報担当、
研究担当、地域連携・国際交流担当)**荒田 鉄二** 准教授副学長補佐(教育担当、学生生活・就職担当、
情報担当、企画・評価担当)**富岡 庄一** 教授経営学部長 兼 環境経営研究科長
兼 環境経営研究科経営学専攻長**岡崎 誠** 教授環境情報学部長 兼 環境情報学研究科長
兼 サステイナビリティ研究所長**齊藤 明紀** 教授

情報メディアセンター長

吉永 郁生

教授 地域イノベーション研究センター長

北崎 寛教授 国際交流センター長 兼
人間形成教育センター副センター長(2016.6.3~)**根本 昌彦**

教授 環境学部副学部長

石川 真澄

准教授 経営学部副学部長

名古屋 孝幸

准教授 人間形成教育センター副センター長